

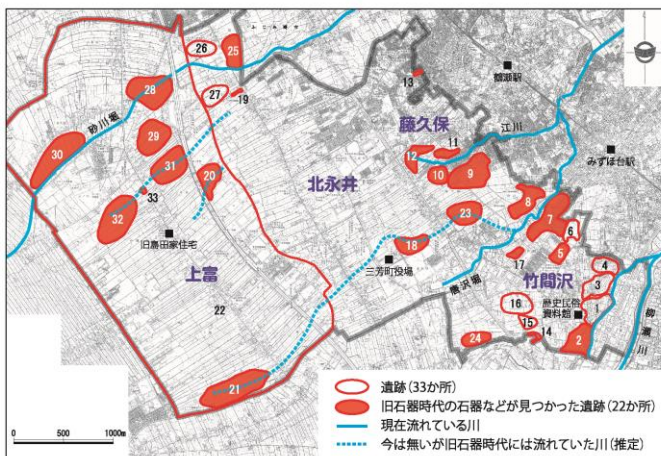
「みよし文化財だより」は文化財保護課（歴史民俗資料館）が作成する不定期刊行物です

三芳の遺跡はどこにある？ ～旧石器時代から平安時代まで～

町内にある、33か所の遺跡。それらはどんな場所にあるのでしょうか？そして、時代の移り変わりとともに、どのように変化するのでしょうか？

今回は、これまでの発掘調査などから明らかになった**遺跡の場所**に注目して、旧石器時代から平安時代までの様子を見ながら、そこから見える人々の動きを紹介します。

■ 旧石器時代（約35,000年前～約16,000年前）



【遺跡から見つかったもの】

- 石器を作った跡・・・259カ所
- 調理跡・・・・・・・・・・170カ所 など



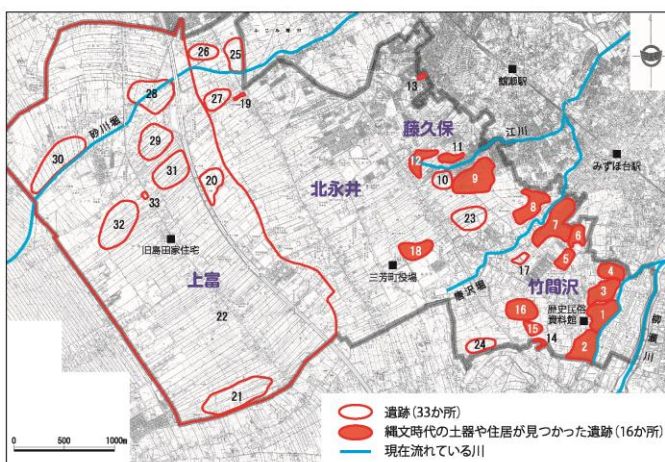
きよくぶませいせきふ
局部磨製石斧
藤久保東遺跡(12)
出土。約35,000年前。
県内で最も古い石器のひとつ。



ナイフ形石器
中東遺跡(20)出土。
約17,000年前。

遺跡は町内の広範囲で見つかっています。特に上富地区では、「今は無いが旧石器時代には流れていた川」の近くに遺跡があります。人々は、獲物を追いかけてながら水辺を移動する、キャンプ生活をしていたようです。

■ 縄文時代（約16,000年前～約2,800年前）



【遺跡から見つかったもの】

- 住居跡・・・・・・・・・・12軒
- 煮炊きの跡・・・・・・・・39カ所 など

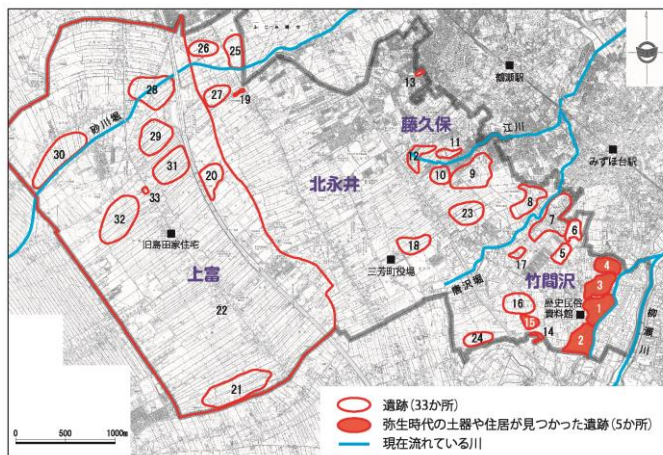


うめがめ
縄文土器（埋甕）
保埜遺跡(9)出土。約4,200年前。
土器の下部を意図的に打ち欠いて、住居の床に埋め込んだ状態で出土。

遺跡は藤久保・竹間沢地区で多く見付き、上富地区では見つかりません。これは、旧石器時代に上富地区を流れていた川が気候や地形などの変化で**枯れて無くなり**、人々がより水や獲物などを手に入れやすい場所へ移動していったためと考えられます。

※遺跡名の後ろにある（ ）の数字は、遺跡地図内の数字と対応しています。

■ 弥生時代（約 2,800 年前～約 1,800 年前）



【遺跡から見つかったもの】

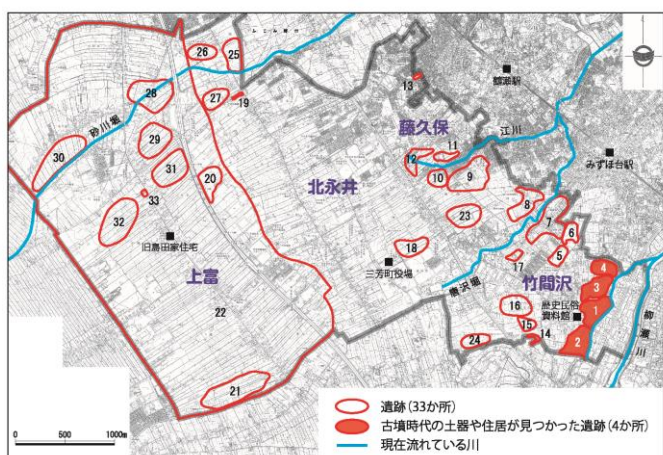
- 住居跡・・・24 軒
- 有力者の墓跡・・・3 基 など



弥生土器
本村南遺跡(1) 出土。約 1,900 年前。
大きな溝の中に投げ込まれた状態で出土。

遺跡は竹間沢地区に集中します。弥生時代になって**稲作**が始まったことにより、**水田**を作りやすい場所として、人々がこの地を選んで暮らし始めたと考えられます。

■ 古墳時代（約 1,800 年前～約 1,300 年前）

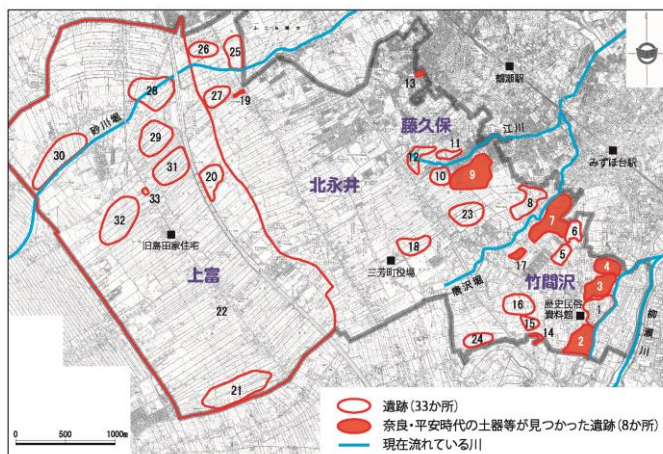


【遺跡から見つかったもの】

- 住居跡・・・3 軒 など

遺跡は竹間沢地区に 4 か所ありますが、住居跡は 3 軒しか見つかりません。町内には古墳もなく、この時代大きな集落は作られず、多くの人々は別の土地で暮らしていたようです。

■ 奈良・平安時代（約 1,300 年前～約 830 年前）



【遺跡から見つかったもの】

- 住居跡・・・・・・・・・・13 軒
- 須恵器を焼いた窯跡・・・4 基
- 須恵器を作った工房跡・・・3 軒
- 炭焼き窯、鉄を作った作業場 など

古墳時代とは一転、竹間沢地区で須恵器の製作工房や焼いた窯（新開遺跡

(7)) などが、藤久保・北永井地区では炭焼き窯や鉄を作った作業場（宮前遺跡(19)・俣埜遺跡(9)) などが見つかります。人々は社会の変化に伴い、炭にする木がたくさんある場所や粘土が採れる場所など、**作業に最も適した土地**を選んで暮らしていました。

このように遺跡の場所の移り変わりをみることで、人々が自然環境や食料事情、社会の変化に適応して暮らす場所を変え、生活を営んできたことがよくわかります。(文：大久保)

※内容は 2020 年 7 月のものです。今後の調査で、三芳の歴史に新たな 1 ページが加わる可能性もあります。